

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2021.10.No290

10月号

目次

特集 新庁舎紹介

- ・旭川市……………1
- ・浜中町……………2
- ・芽室町……………4

女性の窓……………6
[No.102 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]

Coffee Break……………7

information……………8

URL <https://www.h-ab.com/>

特集 新庁舎紹介

役場庁舎建て替え

情報委員会委員長 齋藤勝哉 (旭川支部)



昨年から引き続き終わりの見えないコロナ禍において、当会の事業、イベントも軒並み中止となっております。この会誌では事業の報告を主題としていますが、ここまで中止が続くと誌面を構成するのに大変苦慮しています。

そんな中、渡りに船とでも言いましょうか、役場庁舎の建て替えに関する記事をお願いすることが多くなったことに気づきました。少し調べたところでは、今年の竣工移転が今号の特集で取り上げている浜中町、芽室町を含む13件、去年は士別市の1件、来年以降では私の地元旭川や岩見沢市、富良野市、大樹町などが予定されています。

この二年間で全国では120件を超える数の庁舎が建設されています。その中でも北海道だけで14件となっていますので、これは特に突出した数と言えると思います。

平成29年に庁舎建設に対する地方財政措置制度が創設され、これを利用した庁舎の建て替えが行われたようです。この制度での竣工期限であることから今年の竣工に集中したようです。

お正月明けに北見市、浜中町、芽室町の3市町、

GW明けに砂川市、鹿部町、ニセコ町、倶知安町、神恵内村、上砂川町、新十津川町、美幌町、津別町、中札内村と10の市町村の移転が集中していました。

来年の全道大会は空知大会です。勝手な妄想ですが、ちょうど岩見沢市庁舎が竣工予定ですし、少し離れて砂川市、上砂川町、新十津川町は纏まって隣接していますので、そのあたりも絡めた分科会なんかもどうでしょう？

各施設の特徴についても調べてみました。どの庁舎も防災、省エネ、複合用途施設といったことを全面に出している印象でした。規模の大小はあれど、どの庁舎も同じような特徴を有しているため特徴と言えなくなっている気がします。

東日本大震災や胆振東部地震の教訓も盛り込まれており、以前よりも重要性の増した庁舎であると思います。その中でも防災については、考え方がそれぞれ違っており、海岸沿いは津波に対して、内陸は洪水に対してなど、地域特性や対応する災害の種類などもよく考えられている印象でした。特に昨今は豪雨による洪水被害が全国で多発しているため、それに備えられているというのは住民にとって安心感につながりますね。

省エネに関してもそれぞれに取り入れられており、太陽光発電設備は標準装備。それにプラスして地熱の活用を取り入れているところも多く見受けられました。また、大規模停電に対応できるように補助発電設備も取り入れられています。このあたりは取り入れなければならない条項と言ったところでしょうか。そのうえで当麻町のように地産材を使用した木造での建設といったような特徴となることも興味をそそられます。

そういったことを踏まえて、新設庁舎の見学ツアーとかもしてみたいですね。ワクチン接種も進んでいますし、この騒動が明けたら是非企画をお願いしたいと思います。



▲建設中の旭川市庁舎(奥)と現庁舎(手前)

防災機能が充実した災害に強い役場庁舎

浜中町役場 塚田 恒平



庁舎敷地全景（太平洋を望む）



庁舎外観



吹き抜けのあるロビー（町内産材を使用）

- 建築主 浜中町
- 設計監理 (株)大建設 札幌事務所
- 施工業者
 - 建築主体 丸彦渡辺・赤石・村井JV
 - 電気設備その1 高部・矢原・中原JV
 - 電気設備その2 サンエス・北電・浜中無線JV
 - 空調換気設備 三建・太平洋JV
 - 給排水衛生設備 池田・榊設備工業JV
 - 地中熱利用設備 (株)有我工業所
- 建築概要
 - 用途：庁舎 階数：地上3階建て
 - 構造種別：鉄筋コンクリート造
 - 構造方式：基礎免震構造 設計地盤面：42.0m
 - 延床面積：4,205.61㎡ 敷地面積：18,466㎡

1. はじめに

旧庁舎は、昭和42年に建設され築後53年を経過し、経年による劣化が著しい状況であり、有事の際、来庁者や職員の安全確保が懸念されていました。

また、旧庁舎は津波浸水区域に位置していることから、新庁舎を建設するにあたっては、地震・津波による浸水や倒壊など、自然災害のリスクが少ない高台等に移転し、「災害に強い庁舎」として施設の安全性・耐震性を確保することが求められていました。

このような状況を踏まえ、町は平成26年4月に「新庁舎建設準備検討会議」を立ち上げ、これを契機に、平成29年度基本設計、平成30年度実施設計、令和元年度建設工事に着手し、令和3年1月の開庁となったところです。

今回は、新庁舎の防災拠点としての機能について紹介します。

2. 庁舎高台移転による安全性の確保

新庁舎は、これまで津波浸水への懸念があった旧庁舎（標高3.2m）を、浸水被害を受けない高台（標高42.0m）へ移転させたことにより、防災拠点となる安全で安心な庁舎となっております。

3. 建物と人命を地震から守る「免震構造」を採用

免震構造を採用した新庁舎は、大地震が起きた場合でも建物への損傷が生じにくく、安全性が確保されるほか、地震の揺れから来庁者や職員の命を守り、防災拠点としての機能を果たすことができます。

【免震部材】

高減衰ゴム系積層ゴム支承	20基
天然ゴム系積層ゴム支承	4基
直動転がり支承	8基
オイルダンパー	4基



天然ゴム系積層ゴム支承

4. 避難所機能と防災機能を兼ね備えた庁舎

災害時、庁舎1階の一部と3階のフロア全体が避難エリアとして機能し、避難者の生活を支えます。

また、庁舎2階には、防災関連の機器が集約した防災管理室と災害対策本部となる防災センター会議室が設置されており、災害対応の拠点となります。



防災対策室



防災センター会議室

5. 避難場所としての機能を維持するライフラインの確保

【電気】

停電時には、庁舎敷地内に設置された防災発電棟内の非常用発電機（500KVA）により、72時間の電力供給が確保されています。それにより、庁舎内の一般照明・一部コンセント・冷暖房・浄化槽・エレベーターを使用することが可能です。



(左)防災発電棟の中に(右)非常用発電機(500KVA)が格納されています。

【給水】

庁舎敷地の隣接地に建設された防災貯留槽から役場庁舎へ水を供給しています。

避難者の約7日分（780 t）の飲用水・生活用水を貯留する機能を備えています。

【排水】

緊急汚水槽（250 t）を整備し、浄化槽に異常が生じた場合でもトイレを使用することができます。

6. 再生可能エネルギーの『地中熱』を活用した省エネ庁舎

冷暖房設備には、少ない消費電力で効率的に熱エネルギーを得られる地中熱利用システムを採用しています。庁舎前駐車場の地中に約100mのボアホールが115本設置されており、地中からの熱を採取し、加熱または、冷却することで、室内の冷暖房に利用しています。



地中熱利用システムイメージ図

■着工から完成まで（ダイジェスト版）



① 工事着手（庁舎敷地の造成完了後）



② 免振ピット施工状況



③ 躯体工事施工状況



④ 躯体工事完了



⑤ 外部足場解体・外部工事完了



⑥ 工事完成

7. 各フロアの役割

1階は、『窓口サービスと保健サービスをメインとしたフロア』となります。保健集会室を設置し、庁舎内で健康相談や子育て相談、各種検診などが行えます。



サイン関係は、湿原や酪農業をイメージした緑で配色しています。

2階は、『行政機能と防災対策機能をメインとしたフロア』となります。災害対策本部となる防災センター会議室をアクセスしやすいフロア中央に配置し、迅速な対応が可能です。



サイン関係は、海原や漁業をイメージした青で配色しています。

3階は、『議会機能と会議機能をメインとしたフロア』です。災害時には、フロア全体が避難所となり、多くの避難者を収容することが可能です。



海や土、草原など浜中町の自然を表現した議場です。災害時には、避難所になります。

8. さいごに

新しい庁舎は、それまで分散していた福祉部門や教育委員会も統合し、大きなオフィスに生まれ変わりました。機能や規模、空調設備など旧庁舎と大きく変わり快適を得た分、維持管理に係る項目も増大しました。

この庁舎を今後、数十年の長期にわたり、快適に使用する為には、適切な保守を継続すると共に、長期的且つ保全的な改修計画を立てる必要があると日々感じているところです。

以上、簡単ではありますが浜中町役場新庁舎の紹介とさせていただきます。

新庁舎できました！



事業委員会 山田大樹（十勝支部）

【建替えまでの経過】

芽室町は十勝地方西部に位置する人口約1万8千人の町です。私の勤務する芽室町役場は町の中心部に位置し、第1庁舎は昭和43年に、第2庁舎は昭和37年に建設され十勝管内の役場庁舎の中では最も古い庁舎でした。施設の老朽化が進み、防災拠点としての耐震性が不足していることから平成24年に建替えを決定し、建設基金の積立てを進めていました。そのような中、平成28年に発生した熊本地震では災害対策本部となるべき市役所が損壊し、地震の初動対応に支障をきたしました。このような事態を目の当たりにしたことから新庁舎建設を前倒することとなりました。



第1庁舎と第2庁舎

【設計者の選定】

公共工事の入札は価格で決めることがほとんどですが、新庁舎建設では中心市街地の活性化を視野に入れた庁舎設計や多様なニーズを取り入れる技術力や知見を持った事業者を選定するため、基本設計の事業者選定は公募型プロポーザル方式を取り入れました。公募型プロポーザルでは通常、設計する建物と同規模の設計実績を参加要件にしますが、大型の公共工事の設計実績のない小規模な設計事務所や建築家にも参加してもらいたいと考え、庁舎の設計実績要件は設定しませんでした。その結果13者からの応募があり、新庁舎に求められる機能やまちづくりへの多種多様な提案を受けて大学教授も含めた選考委員会において設計者を選定しました。

【実施設計と工事施工】

実施設計は北海道では初となるECI（アーリー・コントラクター・インボルブメント）を採用しました。これは実施設計に施工者が参加する方法で、発注者、設計者及び施工者の三者が協議をしながら設計を進めます。施工者は協議の中で、施工方法の工夫により品質は同等でありながらコスト縮減したり、より良い品質を同等のコストで実施するVE（バリュー・エンジニアリング）案の提案を行います。施工者の選定は基本設計の設計図と要求水準書を公募資料とし参加者からは工事費の積算やVE案

を求め、プレゼンテーションを受け施工者を選定し入札により決定しました。この頃は高力ボルトや鉄骨材料が全国的に品薄でしたが、実施設計中にこれらの注文が出来たので工事に影響はありませんでした。施工者も実施設計に加わっているため、より良い施工方法や材料の提案を受けてスムーズに設計を進めることができました。実施設計が終わりいよいよ工事がスタートしますが、新庁舎は第2庁舎がある位置に建設されるため、第2庁舎から第1庁舎に職員が引っ越すところから始まりました。第2庁舎は第1庁舎から20mくらい離れた位置にあります。第2庁舎には土木・建築・農林などの現場系の課があり私も役場に入ってからずっと第2庁舎で勤務していたので、第1庁舎で勤務するのは初めてのことでした。第2庁舎の解体直前、若手職員の企画による「さよなら第2庁舎パーティ」を第2庁舎で開催し、お世話になった建物との別れを惜しみました。第1庁舎の2階が私の所属する課でそこからは現場がよく見えました。第2庁舎が解体されて新庁舎の工事が始まり、少しずつ工事が進んでいきました。基礎工事が進み地下部分を見た時、思ったより小さい印象を受けましたが、鉄骨が立ち上がってくると徐々にその大きさを実感することができました。施工状況はyoutubeで配信され、町民も新庁舎の進捗を確認できるような施工者の配慮もありました。



町民も利用できるスペース

【新庁舎の特徴】

新庁舎ではそれまで他の施設に分散していた教育委員会と保健福祉課を集約化しコンパクトで効率的な庁舎としました。コンパクト化のための手法のひとつが課のユニバーサルレイアウトです。それまでは教室の教壇のように課長の机が独立し、その前に課の職員の机が並んでいましたが、このレイアウトではスペースに無駄が生まれます。ユニバーサルレ

アウトでは課長も係員と同じ並びに配置し、不整形な机の集団をなくし工場のラインのように整った機能的な職務環境をつくることができました。また職員の席を固定せずどの席でも自由に仕事ができるフリーアドレスとしました。カウンターやオープンスペース、そこかしこで職員がPCひとつで仕事をしている風景はテレビで見たことのある都会のオフィスのように感動しました。会議室の数も旧庁舎での利用状況（人数・回数）を詳細に調べて、必要最低限の会議室を整備し、稼働間仕切り壁を設けてフレキシブルな構造としました。このように様々な手法を取り入れてコンパクトな庁舎を実現しました。



コンパクトな執務空間

地震に対する備えとしては、いくつかの手法を検討した結果、経済性に配慮した制震ダンパーを採用しました。これは地震の揺れによる建物の変形に応じてダンパーが作動し地震のエネルギーを吸収し揺れを低減するシステムです。この制震ダンパーを1階の四隅にバランスよく配置し庁舎の制震性能を確保しました。平成30年に発生した胆振東部地震によるブラックアウトでは芽室町も数日間停電しました。新庁舎には160kwで72時間稼働が可能な非常用発電設備を設けて災害への備えを万全なものとしています。自治体の議場の多くはひな壇のように高低差がある作りとなっていますが、新庁舎の議場の床はフラットになっていて、必要に応じて会議室として利用する事もできます。



道産木材を使用した議場

【新庁舎へ引っ越し】

引っ越し作業は令和3年の正月休み期間に職員で行いました。第1庁舎の地下書庫には書類の入ったダンボールが2千箱近くあり、これらを職員が一列に並びバケツリレーで新庁舎へ流します。ダンボールには書類がぎっしり詰まっていたとても重く、1時間くらい作業していると握力がなくなり腕もパンパンに！つくづくこれからはペーパーレスを推進しなければと誰もが感じたところでした。新庁舎へ引っ越しして、春になり第1庁舎の解体が始まりました。第1庁舎は3階建てで4,000㎡もあるので解体現場も見ごたえのあるものでした。第1庁舎は地上部分だけを解体し、地下部分は書庫として再利用します。10月末の完成を目指して現在工事中です。



解体中の第1庁舎

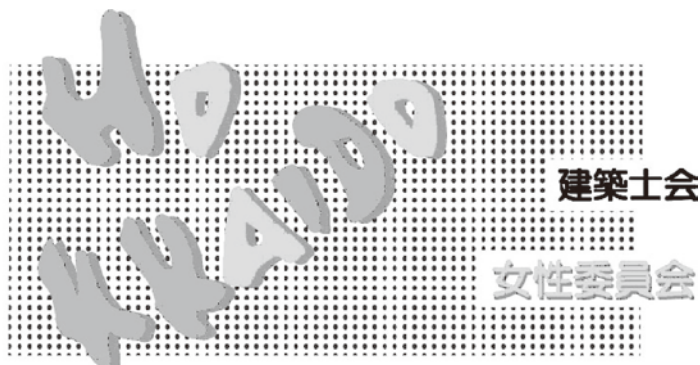
【新庁舎完成への思い】

庁舎建設事業は自治体にとって50年に1度の大事業です。私は新庁舎建設の担当課に所属していませんでしたので、建設に大きく関わってはいませんが、そこに立ち会えた事は建築技師として大きな財産だと思います。そして完成までは多くの困難な道がありました。担当課や設計者、施工者の努力や大勢の関係者の協力によりこの一大事業が完成することとなりました。そして、完成してからこれまでに多くの方が見学に来ていただき、新庁舎の機能やデザインにお褒めの言葉をいただきました。建築士会のみなさん、芽室町役場新庁舎にはここには書かれていない優れた特徴がまだまだあります。私がお案内しますので、ぜひお越しください。



新庁舎の外観

No. 102



わたしの防災手帳

新海 直美 (札幌支部)

このところ、〇〇年に1度と言われる災害が毎年のように起こっています。そのたびにたくさんの防災の情報を見聞きして、知識は増えているように思います。札幌支部の女性委員会でも勉強会などを行ってきました。

でも…災害で気が動転しているとき、いつも当たり前でできていたことができるだろうか…。知識をちゃんと人に伝えられるだろうか…。外出中でスマートフォンも使えない事態になったら家族や仕事関係の連絡先を思い出せるだろうか…。そんな不安がよぎります。更に悲しいかな、年々「思い出せない」「覚えられない」という事態が増えてきているという現実も！これは、かなり不安だぞと…そして、そんな心配を抱えている人は少なくないかも…？

そこで、札幌支部女性委員会ではいつでも身につけておける防災手帳をつくらうという話になりました。せっかく建築士会で作るのだから、「住まい」についての視点を盛り込んだものにしようということに。

サイズはお財布などにも忍ばせることができるA4八つ折。

内容は大きく分けて5項目。

- ① 災害用情報
 - ・ 災害用伝言ダイヤル
 - ・ 災害用伝言板
 - ・ 緊急通報先

- ・ ラジオの周波数
- ② わたしの避難所
 - ・ 避難場所と居住地の情報
 - ・ 避難前のチェックポイント
- ③ 住まいに被害があったとき
 - ・ 写真を撮ること
 - ・ 片付け前の注意点
 - ・ 被災建物の判定について
- ④ わたしのこと
 - ・ 氏名や血液型、健康保険証番号など個人情報
- ⑤ メモ
 - ・ 大きくメモ欄を取って自由に書き込めるように

②と③は建築士がつくっているということでこだわったところ。

避難場所を調べる際に、自分が住んでいる地域をハザードマップなどで調べてもらうことで、どんな危険があるのかを知ってもらう仕掛けにしています。

また、うっかり忘れてしまいそうな、電気やガスなど住まいのことで気を付けた方がよいことなども記載しました。そして、被災建築物応急危険度判定のステッカーの存在や、罹災証明との違いなども知ってもらえるようにしました。

防災手帳の他に手引きとして資料編も作成しています。皆さんにもご活用頂けると嬉しいです！



資料編は札幌仕様になっていますので、他の市町村の方はアレンジしてみてください。

私の好きなこと…

藤井 洋子 (旭川支部)

私の好きなことは、建築とあまり関係のないことですが、パワースポットめぐりで、よく出かけています。今はコロナの渦中で、なかなか自由に行動できませんが、気分転換に効果的でお勧めです。

なかでも私が一番好きな場所は、みなさんもご存じ【日光東照宮】。徳川家康を神として祀っている神社で、ここにはたくさんのパワースポットがあります。石の鳥居をくぐると、左手に五重の塔（今の五重塔は再建された塔で、耐震構造はスカイツリーの設計にも応用されたとか…）。五重塔を抜けると、表門左手にパワースポットの一つの新厩舎があり、ここにいるのが『三猿』です。人の一生を風刺した内容で、とても惹きつけられます。陽明門に行く前に御水舎に寄ります。この水は2キロ離れた滝尾神社付近からと言われており、水が途切れることなく出続ける仕組みになっているそうです。今は当たり前ですが、江戸時代の建築技術に圧巻ですよ。御水舎にもたくさん見どころがあります。そこを抜けて陽明門に入ります。中に入るとまだまだパワースポットがたくさんあります。

北海道にもたくさんのスポットがあります。そんな場所に出かけ、自然のパワーをいただいでるのが私の好きなことです。みなさんもぜひ、訪れてみてはいかがでしょうか…元気がでますよ！



以前訪れた『神の子池』

千歳支部

縄文時代に思いを馳せて ～キウス周提墓群～

千歳市文化財保護審議会委員
村中 敬維



北海道・北東北縄文遺跡群が今年7月に世界遺産に登録されました。その中に千歳市のキウス周提墓群があります。縄文時代の終わりに近い頃（約3200年前）、北海道では独特な集団墓が造られました。それは地面を大きく円形に掘り下げ、周囲を環状に土を盛って墓穴を造り遺体を埋葬した集団墓です。これは北海道固有のものであり、その周提墓群の1つが千歳市で発見されています。そして1979年に国指定史跡に指定されたものです。周辺の市においてもい



キウス周提墓群 1号周提墓

くつか発見されていますが、直径70mを超える大きなものがあることや、現在の地表面からその形を見ることができる意味でも貴重なものと言えます。

とはいえ、私のような素人が最初に現地の地面だけを見たときは「ふーんっ、ここにあったんだ」という感想でしかありませんでした。

しかしその周提墓の中からいくつかの墓穴や、石柱・石棒などの埋葬品が見つかった事、そして周提墓の周りに縄文人が輪になって先祖を敬っていたらと推測されていることなどを知ったとき、一種のロマンにも似た不思議な感覚になったことを覚えています。

それにしても縄文時代に、この極寒の地で多くの人々が生き、そして生活していたこと、それ自体に「なんでよりによってここなの？」と頭の中で、今でもハテナマークが渦巻いていますが…

そんな私の個人的な感想はさておき、世界遺産に登録されたこともあり、これからは永遠に守り後世に伝えていかなければなりません。

ん。つまり、それらの責任も発生したことになります。

ある意味ひっそりと守っていきたい部分もある中、この相反することを実現していくためには、人々の知恵が必要かもしれません。

これまでも100年もの間、担当職員・研究者・地域住民など、多くの人々の手で守られてきました。現在も千歳市と市民団体との協働事業として、ボランティアガイド事業を行っています。実際にどのような暮らしをしていたかがまだ謎の部分が多い訳ですが、私個人としてはVRを使って「多分こうだったんじゃないか映像」が見えると、より身近なものに感じられる気がします。きっとこれからも様々な試みが発見されるものと思ひ、期待しています。

資料提供

：千歳市埋蔵文化財センター、
吉田裕史洋

引用・参考文献

：千歳市ホームページ
：史跡キウス周提墓群－縄文墓地群を映す遺跡景観－（豊田 宏良）

士別支部

にぎわい 創出 ～道の駅ができました～

士別支部 副支部長
安藤 英治



会員の皆さま、紙面に失礼いたします。士別支部の安藤と申します。

初めに、当紙6月号に記事がありましたので、月日が経ちましたが、コロナ禍前2018年当地での全道大会に、各地より多くの会員の皆様にご参集頂き、ありがとうございました。不足な部分もありましたが、なんとか大役を果たせた事に会員の皆様、関係の皆様、改めてこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、遅まきながら、我が街士別市にも5月1日、道内129番目の【道の駅 羊のまち・侍士別】を開業するに至りました。道央高速道路 最北のICで降りてすぐ

のロケーション。コロナ禍ではありますが、開所以来、8月23日現在で20万人超のご来場。想定を超える多くの皆さまに来て頂いて、誠にありがとうございます。

大きな施設ではありませんが、道駅機能はもちろん、本格レストラン・地産品の販売・観光を含めた各種情報の発信など、道行く往來の皆さまに気軽に休息して頂ける拠点になっております。

賑わいの創出・中心街のリボン・街の魅力発信などなど様々な想いを込めての施設は地域の念願でもありました。

この施設を元に、羊のまち士別・合宿の里しべつ（昨年実績入数11,462人・TOKYO2020 札幌開催の男子競歩で当地合宿のドイツ選手が銀メダル）。車関係試験のまち士別（トヨタ自動車試験場含め関連 5社）、今まで磨いてきた

取り組みも、更にご紹介できればと思います。

また街から郊外に出かければ、天塩川源流の、ほぼ手つかずの北・北海道の雄大な自然、牧歌的な風景の中でひと時の喧噪・密を避けての息抜きにはうってつけです。

長々、わが街自慢で失礼いたしました。以上で支部の近況報告とさせていただきます。状況が落ち着きましたらぜひ、お運びください。旅は二度目が本当に楽しいとか・・・ありがとうございました。



【道の駅 羊のまち・侍士別】

道士会の動き

道本部の主な会議報告（9月）

◆第3回理事会（web開催）

（開催日）3日（金）

（議題）※議題はすべて承認済

- 1) 令和3年一般会計予算の補正及び流用（案）
- 2) 令和3年一般会計事業報告及び収支状況報告（7月末）
- 3) 令和3年特別会計事業報告及び収支状況報告（7月末）
- 4) (一社)北海道建築士会創立70周年 (一社)北海道建築士会第44回全道大会（空知大会）事業計画及び収支予算（案）
- 5) 「(一社)北海道建築士会特別活動費」の令和4年助成対象事業及び助成金の額の決定（案）
- 6) 二級建築士となる資格を有する者であることの証明書を発行する事務手続要領の制定（案）
- 7) 北海道建築士会継続的な能力の開発の促進に関する規則（CPD規則）に関する様式の一部変更（案）
- 8) 継続的な能力の開発の促進に関する規則に基づくプログラム審査評議会及び専攻建築士審査評議会評議員の委嘱（案）
- 9) (一社)北海道建築士会事務局職員就業規則の一部改正（案）
- 10) 令和4年一般会計事業計画及び予算編成
- 11) 定款第6条に基づく会員の入会承認（案）

本部の主な行事予定（10月）

- 10日（日）一級・木造建築士（設計製図）試験
 23日（土）第3回まちづくり委員会（web併用）
 まちづくりフォーラム（web開催）
 30日（土）第2回被災地応急支援委員会

関係機関等会議参加予定（10月）

- 19日（火）建築設備士試験審査委員会
 上記 高野会長

CPD認定プログラム(9月認定)

プログラム認定はありません。

編集後記

新型コロナウイルスの影響で1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックが無観客での開催となり、終わってみると史上最多のメダル獲得数、(パラでは2番目の獲得数)となった事は、非常にすばらしく思いました。この北海道でも3つの競技が開催された事にも観覧は出来ませんでしたが大うれしく思いました。

依然としてコロナ禍の影響は生活の中で支障をきたしていますがこれからの季節は肌寒くなりますので健康管理に留意してください。
 情報委員会 柏倉 晶憲（土別支部）

講習会・セミナーのご案内（10月）

監理技術者講習

20日（水）札幌市

建築士定期講習

6日（水）苫小牧市
 13日（水）釧路市
 26日（火）北斗市

既存住宅状況調査技術者講習

7日（木）札幌市
 14日（木）北斗市
 15日（金）旭川市 ※新規講習

BIMオンラインセミナー

22日（金）札幌市

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■10月パスワード：Iwa012

令和4年「建築基準法講習会」中止のご案内

例年1月から2月にかけて全道19会場で実施しておりました「建築基準法講習会」開催について、実施する予定で準備しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が危惧されており、本会としましては、今後の感染拡大を懸念し、政府及び地方公共団体その他関連団体の対応状況と、予定している建築基準法講習会の開催時期を鑑み、誠に残念ではございますが、令和4年の「建築基準法講習会」を中止することを決定致しましたのでご案内申し上げます。参加を予定されておりました皆さまにはご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

なお、テキスト「実務に役立つ建築法規」につきましては、令和3年同様、販売を予定しておりますので、詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。

情報委員会委員長／斎藤 勝哉
 副委員長／早川 陽子・森 勝利・前田 繁
 委員／柏倉 晶憲・村山 賢司
 片岡 哲二・境谷 香奈

北海道建築士 No.290号

印刷 令和3年9月／発行 令和3年10月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番